

〇募集期間：R2.04.06～R2.05.07 〇交付予定団体数：11件、19,859千円

番号	事業名	事業者	事業目的・概要	交付決定額 (千円)
1	被災者と地域住民コミュニティのIT活用による絆づくり	公益財団法人仙台応用情報学研究所復興財団	<p>【事業目的】 復興地域に移住する被災者や既存住民を対象として、地元住民相互の絆づくりや自治会役員との交流を深めて地元の活性化につなげる事を目的とする。その目的を遂行するため、パソコン等の簡単な使い方を定期的な交流会を開催する場を提供する。また、初歩ではあるがICTリテラシーの向上につなげ、家族、友人とのコミュニケーションでの活用や趣味の領域の拡大、生活の質の向上、インターネットやケータイの特殊詐欺への注意喚起などを行う。</p> <p>【事業概要】 ・山元町、亶理町、石巻市、東松島市、南三陸町など復興地域の自治会長および社会福祉協議会の協力を得て、1コース3回(かんたん年賀状作成教室)または6回のパソコン(Word、xcel)、インターネットの利用方法、タブレット・スマートフォンの簡単な使い方を教室と茶話会的な交流会を7コース開催する。</p> <p>【取組内容】 「被災者と地域住民コミュニティのIT活用による絆づくり」 PCやスマホの講座をツールとして被災者が集まり、コミュニティ形成を図る。</p>	2,000
2	石巻圏域の復興住宅でのコミュニティ形成支援事業	特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク	<p>【事業目的】 石巻市およびその周辺の復興住宅の住民の孤立防止、生きがい創出により、孤独死増加に歯止めをかける。また、東日本大震災の発災後に団体が支援してきた活動をマニュアル化し、他被災地の仮設住宅・復興住宅のコミュニティ形成に寄与する。</p> <p>【事業概要】 ・住民参加型のサロンやイベントを継続開催し、他被災地のコミュニティ形成に寄与する為、住民とともにこれまでの活動をマニュアル化する。(新型コロナウイルスの影響により開催ができない場合は、訪問や電話にて孤立状態の心のケアを行う) ・また、被災者との交流や復興に貢献したいという個人やグループと住民のニーズをコーディネートし、住民とボランティアとの心の通い合いを築くとともに、震災の風化防止に繋げる。</p> <p>【取組内容】 ①「地域住民を講師とした復興住宅でのサロン活動」 復興住宅やコメンでのサロン活動やイベントを実施。サロン活動の告知のためのチラシを作成予定。 ②「復興住宅でのイベントボランティアコーディネートおよび活動マニュアル作成・活動報告会開催」 復興住宅の住民と共にコンサートのイベントを行うためのコーディネートと、10年間の震災復興活動報告等を、被災者と共にまとめてあげてマニュアル化し、防災、風化防止に寄与する。</p>	3,288
3	3.11ソレカラ～障害者・福祉職員の「あの日」と「ソレカラ」～	特定非営利活動法人みやぎセルフ協働受注センター	<p>【事業目的】 宮城県内外における東日本大震災の記憶の風化を防ぎ、障害者と地域住民等との心の交流・復興を支援することによって、被災障害者が地域に根差した活動ができる環境を創出し、生きがいを持った活動、生活を送ることができるよう支援するもの。</p> <p>【事業概要】 ・障害者や福祉職員が震災で直面した困難や、生活及びびりわいの再建過程等の記憶を記録化し情報発信する。 ・マルシェ等地域イベントを開催または参加し、障害者が地域住民とふれあい、生きがいを持つ機会を創出する。 ・県外のイベントを活用し、現在の被災地の復興・生活再建の状況をパネル展示会やSNS等で広く発信する。 ・被災障害者や福祉施設職員が主催するワークショップや販売会の開催支援、広報活動を支援する。</p> <p>【取組内容】 ①「3.11ソレカラ～障害者・福祉職員の「あの日」と「ソレカラ」～ inそなエリア東京」 映画の上映及びパネル展の開催。被災者である小山氏のトークディスカッション等を行う。 ②「3.11ソレカラ～障害者・福祉職員の「あの日」と「ソレカラ」～ inみやぎ」 震災の経験や記憶を伝えるため、被災した障害者や福祉職員が地域住民と触れ合いながら販売会やワークショップを開催する。</p>	726
4	東日本大震災宮城県民100の提言	一般社団法人宮城県社会福祉士会	<p>【事業目的】 東日本大震災は、東北に根強く残る「結」や「調」の地域文化を下にした相互扶助により、困難な状況乗り越えてきた。この経験は、次の震災の備えとして生かすとともに、震災で傷ついた心に自己肯定感を持たせ、前向きに震災復興に取り組む力を持たせてくれている。この為、本事業では、これらの事例を集め、多くの方々と共有し、自己肯定感の涵養に生かしたいと考えています。</p> <p>【事業概要】 ・東日本大震災で、行われた様々な心の復興を意図した支援活動を当事者の語りとして取り上げ、各活動内容別に分類し、東日本大震災100の提言として取りまとめる。 ・この100の提言は、冊子にして関係機関に配布し、震災で得た知見を県民全体で共有する。</p> <p>【取組内容】 「東日本大震災被災者支援の実践事例の収集及び編集並びに冊子の印刷製本」 編集委員会発足。取材及び執筆者の選定及び依頼を行い、選定した100以上の被災者に執筆してもらい、冊子として編集し、県内の関係団体へ無料配布する。</p>	2,000
5	人の五感を刺激することにより心と体を再生する	一般社団法人復興支援士業ネットワーク	<p>【事業目的】 ①震災以後、体調を崩し自宅に引きこもっている方々に対してリラックスできる場所を提供する。専門家がアドバイスをすることで健康や生活再建に関して新たな気づきが生まれる。明日に向かっての希望の場としたい。 ②近所関係を希薄といわれる昨今である。災害公営住宅にお住まいの方にとっても新たなコミュニティの場にしていきたい。 ③疲れた心や体を回復させるためには、心身をリラックスさせることが大切。人間本来の主要な感覚である「視」「聴」「触」「味」の五感を刺激し、心や体のコリを上手にほぐすことができる。</p> <p>【事業概要】 ・震災以後、体調を崩し自宅に引きこもっている方の大部分は心身や経済的にストレスを感じていることが多いため、体調を崩し自宅に引きこもっている方々に対してリラックスできる場を提供する。 ・アロマオイルを使ったクラフト作りと茶話会を通じて交流を促進する。 ・また、専門家(ファイナンシャルプランナー、社会福祉士、行政書士)が心身(具体的な医療部分は除く)に関するアドバイスをします。</p> <p>【取組内容】 「人の五感を刺激コースにより心と体を再生する」</p>	1,200
6	被災者自身が主体的に参加する「心の絆づくり」音楽プロジェクト	東北市民バンド協議会	<p>【事業目的】 ①被災者自身が主体的に参加し、災害公営住宅自治会等の自立・活性化を図ります。 ②町内会や自治会等の各種団体との連携によって、性別や世代を超えた交流が深まり、新たな絆づくりの創生を図ります。</p> <p>【事業概要】 ・災害公営住宅自治会や町内会等と協力し、被災者が住民を誘い、参加者が打楽器、歌、手話などを演奏家や歌の指導者等と一緒に参加し、体験型交流コンサート(絆づくりコンサート)を行います。災害公営住宅(4か所)を中心に、被災した町内会の皆さんと交流が出来るように、町内会で開催する夏祭りや敬老会等の行事でも開催します。終了後は、感想など話し合い、参加者の親睦と融和を図り、住民同士の絆を深めるお茶会を開催します。 ・また被災者(参加者)アンケートを実施し、今回のイベントに反映していきます。 ・1月に多賀城市文化センターで「おもいで」のうたコンサート実行委員会が主催する行事に、毎月練習してきた歌を発表の場として参加させていただき、3月には災害公営住宅集会所で集大成のコンサートを開催します。</p> <p>【取組内容】 「被災者自身が主体的に参加する「心の絆づくり」音楽プロジェクト」 多賀城市の災害公営住宅等と協働しながら体験型の交流コンサートを行う。その中で、住民同士のサロン活動を開催し、事業の成果を報告書に反映させる。</p>	3,202
7	被災地の子どもと親・シニアのためのプログラミング教室事業～プログラミングで「ふれる」「かかんがえる」「まじわる」を体験してモノづくりの風を起そう！Part2～	特定非営利活動法人Synapse40	<p>【事業目的】 「子どもと親・シニアのためのプログラミング教室」をとおして、子どもと親・シニアが良質なプログラミング教材に触れ、問題を解決するための論理的な思考を促し、モノづくりへ発展する交流活動をととして、被災地と都市部との学びの地域格差を解消するきっかけをつくる。</p> <p>【事業概要】 ・各地の災害公営住宅等を中心とした子どもと親・シニアを対象にして主体的な参加意識を促進し、「ふれる」「かかんがえる」「まじわる」をコンセプトにした「子どもと親・シニアのためのプログラミング教室」を石巻市・東松島市・富谷市・大崎市で開催する。 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止により遠隔授業を導入する。公的な施設の利用が可能になった段階で、感染拡大防止策を講じつつ、PCを使わなくてもプログラミングの基礎を身体で学べるプログラミング学習用ロボット、走らせたりゲームをしたりプログラミングすることで遊び方に自由度の高いロボティクスポール、創造的で可能性が無限大のシングルボードコンピュータさらに、3次元の空間を認識してプログラミングできるドローンを導入する。 ・平成31年度事業において「micro:bitジュニア・アンバサダー」の称号を得た子ども達と「シニアの多くもくもくプログラミングクラブ」の「ベッツ・シニア・アンバサダー」として認定した方々を中心としてプログラミングを普及啓発し参加者の学びを深めるための活動を行う。 ・様々なプログラミング教材に触れ体験や学びの成果を発表する「プログラミングフェスタ2021」を開催する。</p> <p>【取組内容】 「被災地の子どもと親・シニアのためのプログラミング教室事業」 小学校で必修となったプログラミングについて、PCの設置台数の少ない被災地にてパソコン教室等を開催する。</p>	2,000
8	受益者から伝承者へ。被災者の若者が子ども支援活動を伝える事業	一般社団法人プレーワーカーズ	<p>【事業目的】 当時小学生、中学生だった子ども(現若者)が主体的に話し合う場を創出し、震災直後、子どもの心のケアを目的に活動していた移動型遊び場(プレーカー)の活動について整理することで、復興まちづくりにおいて大切な子ども視点も伝承していく。</p> <p>【事業概要】 ・震災直後に移動型遊び場へ参加した若者を対象に座談会等を行い、子どもの心のケア活動を当事者の目線で振り返り、記録する。 ・また、震災直後に連携、協働していた支援団体等へヒアリングを行い、当事者の声をまとめて整理する。 ・移動型遊び場(プレーカー活動)のノウハウを被災地域の若者や大学生へ伝える。</p> <p>【取組内容】 「受益者から伝承者へ。被災者の若者が子ども支援活動を伝えるプロジェクト」 1 被災した若者向けの座談会・インタビューを行う。 2 子ども支援関係団体へのヒアリング調査を行う。 3 被災地域の若者へ向けた移動型遊び場支援(ボランティア育成)の研修会を行う。 4 座談会、インタビューをまとめた冊子を発行し、ボランティアを必要としている団体へ配布する。</p>	438
9	子どもの心のケア活動～自然豊かな素晴らしい海を知る～	チャイルドネットジャパン	<p>【事業目的】 昨年の子どもたちへのアンケート調査では、いわゆるPTSDで大きく困っている子どもはほとんどいませんでした。これを踏まえ、認定心理士や児童養護施設の指導員の方にアドバイスを聞くと、PTSDが大きく見られなかったことは、よいことだが、子どもの心は不安定で、ふとしたきっかけで表面化することがある。子どもはそれを自分で処理する力が弱いので、子どもたちとの信頼関係をより深く築き、寄り添うことが大切だ、ということでした。そこで、3つの地域(塩竈・石巻・女川)を大きくつなぐ、広域子どもネットワークに発展させたいと思います。</p> <p>【事業概要】 ・まず、被災者の皆さんが主体的となって行われる活動の中で心のケアの作業教室を行います。具体的には、塩竈では、子ども食堂さんの活動の中で、女川では、つながる図書館さんで、秋に行われる図書館祭り、石巻では、子ども未来図書館で、万華鏡教室を行います。 ・そして、震災10年を迎えるにあたって、集大成として、また、ここからつながる絆の始まりとして、津波のせいで海が嫌いになった子どもたちの心の回復を願い、自然豊かな素晴らしい海に触れもらうために、被災された漁師さんと地元の方々のご協力を得て、各地域の希望する子どもたち、みんなで海に出ます。</p> <p>【取組内容】 「子どもの心のケア活動～自然豊かな素晴らしい海を知る～」 万華鏡教室、子ども食堂にて絵本祭り、ハロウィン等のイベント行事、海へ出かける事業等</p>	1,710
10	被災者支援・ふるさと東北支えあい運動	特定非営利活動法人仙台明るい社会づくり運動	<p>【事業目的】 被災された方と生きる糧になる『生きがい』を共に創っていく仲間として継続的に支え合う ・全国から東北を訪れる人を後押し、共に支え合える環境を提供する</p> <p>【事業概要】 ・復興公営住宅移転後も継続的な被災者への寄り添い事業を実施する。 ・震災風化防止、地域活性化、ものづくり、まちづくり、世代間交流、水産業支援の各カテゴリーを県内で実施する。 ・全国各地の関連団体との連携により、震災風化防止に取り組む。</p> <p>【取組内容】 「地域活性化と生きがいづくり及び東北の理解」 ①復興住宅でのお祭り開催支援(地域活性化) ②地域コミュニティ支援による地域活性化(まちづくり) ③災害復興住宅での趣味の会支援(ものづくり) ④復興住宅での映画鑑賞会支援(地域活性化) ⑤子供支援(被災地の子供居場所づくり) ⑥東北以外住民と被災者の交流(震災風化防止) ⑦東北以外の住民の漁業体験(震災風化防止、水産業)事業概要と同じ</p>	1,295
11	交流促進による生きがい作りと地域課題解決の復興まちづくり事業	特定非営利活動法人故郷まちづくりナイン・タウン	<p>【事業目的】 被災地である宮城県南三陸町や沿岸部から4,200人を超す被災移住者を受け入れている登米市では、住民の交流機会や情報が不足し、小さな課題も解決できない暮らしが続く、心の負担と孤立化が懸念されている。 そこで日常的に継続した参加交流機会を創り、子どもから年配者までの世代間交流と社会参加を促進して、小さなつながりを増やして、被災住民の心の負担軽減と孤立化を防いで復興に向けた取り組みとすることを目的とする。</p> <p>【事業概要】 ・沿岸部被災地域からの住民や内陸部の住民が相互交流できる手創り交流市やワークショップ、企業等と連携した手作りランチの会、空き家を活用した仕事場と交流の場の創出や、まちづくりの情報共有プログラムを開催。 ・被災者が物品販売できる場を創り、生きがいを見いだす。</p> <p>【取組内容】 「手創り交流市とワークショップ、地域課題と解決の情報共有による安心できる暮らしへの転換」 沿岸部被災地から内陸へ避難してきた被災者等を対象とした交流会の場作り事業、手作り市を開催し、被災者が物品販売できる場を創り、生きがいを見いだす。</p>	2,000